

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.150

引っ越しトラブルにご注意!

進学や就職等に伴い、3~4月は引っ越しトラブルが多く発生します。引っ越し料金は単純に荷物の量や部屋の数だけで決まるわけではありません。作業内容やサービス内容で料金が決まります。複数の業者から見積もりを取り、作業員数や補償など価格以外の条件についても検討することが大切です。見積もりは無料で手付金は請求されません。荷物を受け取る時に見積書に記載された方法で運賃を支払います。見積書には「引っ越し」についての約束が記載されています。疑問があれば質問し、打ち合わせ内容は必ず見積書に記載してもらいましょう。

梱包用の段ボールは運送業者を決めてから受け取りましょう。他社に変更した場合に返送料負担などでトラブルになります。引っ越しに関する取引の基本ルールが記載されている「標準引越運送約款」では、解約料・延期手数料は引っ越し荷物の受取日前日で運賃の10%以内、当日で20%以内の料金が発生するとあります。引っ越し後の荷物の破損や紛失については、3ヵ月以内に申し出なければ事業者の責任は消滅します。



西脇区自主防災訓練(2月12日)

平成16年の水害の際、西脇市も多くのボランティアの皆さんに助けをいただきました。時の経過とともに震災報道は減りつつありますが、震災を風化させることなく復興支援活動を続けてまいります。

「自主防災組織」は、阪神淡路大震災をきっかけとして全国的に組織化が進められ、西脇市でも平成9年から自治会単位での立ち上げに取り組みできました。今ではほぼ全ての自治会で設置が完了し、日ごろから災害に備えて訓練を重ねていただいています。先月開催した防災講演会(講師 神戸市西消防署長・石田秀欣氏)に自主防災組織や消防団、民生委員児童委員など500名弱の方々にご参

継続的な復興支援活動を!



西脇市長 片山象二

市長からの手紙

西脇を元気に!!

50

おもてなしコラム 23

西脇市では、「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。豊饒の地で生産された地域食材や地場産業などの魅力に認識を深め、またみんなが郷土に誇りと愛着を持って来訪者をもてなすことで、本市のさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課(市役所内線323)



新ご当地グルメ「西脇ローストビーフ」のメニューもそろえています

西脇の地で受け継いだおもてなし

西脇の地で祖父母、父母、私たちと3代受け継いだお店は早50年目を迎えます。常連のお客さまには「おかえりなさい」、「いってらっしゃい」とお声掛けしアットホームな雰囲気づくりを、ご来店がまだのお客さまには一度は行ってみたいお店「ますのみ松屋」を目指し、これまでお客さまにおもてなしをさせていただいてきました。

地元で栽培された旬の野菜を使った創作料理や黒田庄和牛のローストビーフを使った新たな一品など、挑戦してみたいことがまだまだたくさんあります。

当店ではご予約の際、お誕生日会などの記念日によるご来店であることをお伺いすれば、お店からサプライズのおもてなしをさせていただいています。ご来店の際は、ぜひお声掛けください。

ますのみ松屋 若女将 松田智江



▲「遊びと環境」について意見を交換する幼稚園教諭と保育教諭

研修では、年間通じて講演会やグループワーク、公開保育などを実施。1月に開催した研修会では、瀧川光治大阪総合保育大学教授を講師にお迎えし、「遊びこむ保育のための援助と環境構成の工夫」について考えました。講義では「心を動かす体験・心を動かされる出来事」が遊びや活動の原動力となり、その後の育ちや学びにつながることを再確認しました。瀧川教授は子どもが「遊びの中で育つ」とはどういうことなのか、「環境」をどう捉えよう構成していけば良いのかを解説。参加した教諭らは熱心に聞き入っていました。

ワークシヨップでは、グループで「保育環境の配慮や工夫」、「援助や保育の展開」について具体的な提案を交えて熱く意見交換。他の園の実践例を参考にしながら、幼児の活動について理解を深めました。

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

幼保交流研修会で「幼児教育」を考える

教育委員会では、しばざくら幼稚園の幼稚園教諭や市内の認定こども園の保育教諭が参加する「幼保交流研修会」を開催し、互いに学び合うとともに、意見や情報などを相互に交換しています。

西脇市では、今年度から市立しばざくら幼稚園と市内8認定こども園で就学前教育・保育を実施し、市内の幼稚園と認定こども園で教育・保育を推進しています。

ワークシヨップでは、グループで「保育環境の配慮や工夫」、「援助や保育の展開」について具体的な提案を交えて熱く意見交換。他の園の実践例を参考にしながら、幼児の活動について理解を深めました。

研修後のアンケートから

・他の職員と共に、子どもたちができるだけさまざまな体験ができる環境づくりをしていきたい。
・「遊びこむ」ためには保育者の援助や考えられた環境構成がとても大切だと感じました。

・保育室の環境、先生の援助子どもとの関わりを改めて考えることができた。
・常に、子どもたちが「やってみたい!」と思える環境になっているのか、振り返る日々にしたいと思う。

▼問合せ 幼保連携課(市役所内線563)

心のスケッチ

108

人権教育室コラム

「性の多様性」を認め合う

ある研究会に参加しました。テーマは「性の多様性」を認め合う子どもたち。冒頭のあいさつの中で次のような内容が話されました。「近年、性的マイノリティ(LGBT)の人たちへの社会的関心が高まっているにも関わらず、その理解は十分進んでいるとは言えません。日本における性的マイノリティの人の割合は7・6%(平成27年電通調べ)とされ、13人に1人という割合になります」

それを聞いた小学校の先生が思わずつぶやきました。「私が担任をしているクラスにも2、3人はいるんだなあ」ということは、私自身にとって喫緊の課題なんだ」と。研究会の中では「性の4つの捉え方」について説明がありました。身体の性Ⅱ生まれながらの性のことⅢ心の性Ⅱ自分で認識している性のことⅣ社会的な性Ⅱ男らしさ、女らしさや服装などの性表現のことⅤ好きになる性Ⅱ恋愛感情、性的欲求の対象となる性のこと(性的指向)——身体

性の多様性を表現し、次の頭文字から名付けられた語句▽女性同性愛者Ⅱレズビアン(L)▽男性同性愛者Ⅱゲイ(G)▽両性愛者Ⅱバイセクシュアル(B)▽身体の性と心の性が一致していない人Ⅱトランスジェンダー(T)

の性・心の性・社会的な性が男(♂)で女性を好きになる人を「男性」であるという考えが多数派(マジヨリテイ)を占めています。反対に、身体の性・心の性・社会的な性が女(♀)で男性を好きになる人を「女性」であると考えられています。しかしそれは一面的な考え方で、そうでない人もいます。「世の中、性別を男と女の2つに分けられない」「異性を好きになるのが当然」ではないという認識はとても大切なことだと学びました。

「性の多様性」を理解し認め合うことは、全ての性の在り方が認められ排除されない学級や地域づくりにつながるということを強く感じました。(人権教育室)

性の多様性を表現し、次の頭文字から名付けられた語句▽女性同性愛者Ⅱレズビアン(L)▽男性同性愛者Ⅱゲイ(G)▽両性愛者Ⅱバイセクシュアル(B)▽身体の性と心の性が一致していない人Ⅱトランスジェンダー(T)